

1. 教育の責任

主に下記のカテゴリーの科目を担当しています

- ・初年次教育：キャリアデザインⅠ、Ⅱ
- ・専門分野：哲学、哲学入門、情報メディアと社会、ポピュラーカルチャー研究、哲学と社会（哲学）、倫理学（倫理と道徳）
- ・ファシリテーター育成：PBL 特別演習Ⅱ、Ⅲ

2. 教育の理念

現代社会では、グローバル化や情報技術の進展等による価値観の多様化が顕著になっています。この状況は、自分とは違う文化や背景にふれ理解を深めるというメリットとともに、ロールモデルの欠如や社会情勢の見通しの立たなさなどさまざまな不安も生んでいます。このような状況を生き抜くために、自分自身の価値観を確認し他者に話すことができるようになることは大学生として重要な課題であると考え、その育成に努めます。

3. 教育の方法

●自分の考えの言語化

大学生が自らの考えを言語化することは、下記の項目において重要な役割を果たします。

- ・思考の整理：自分の考えを言語化することで、頭の中にある思いや要求を整理し明確にすることができます。また、言語化できない部分について思いをめぐらすことができます。
- ・論理的思考力の育成：自分自身の考えを整理して他者にわかるように話すこと、また他者の考えを理解することで、論理的思考力および批判的思考力を鍛えます。
- ・自己理解の促進：自分の考えをことばにして振り返ることで、自身の価値観や理念を再確認することができます。自己理解を深めることにつながります。
- ・具体的な手法：レポートやリフレクションを書くこと、また書く準備をすることで、思考を言語化する訓練をします。準備には、資料を探して読み解く力も入ります。自分の考えを書き表せるようになることは、どの分野においても重要な力となります。

●グループワーク

学生同士で行うディスカッションやプレゼンテーション、ワークショップなどのグループワークは、多様な価値観を育成するために効果的です。

- ・異なる視点の共有：自分の意見や考えを共有し、他者の視点を理解する機会を得ます。他の学生の考えを知ることで自身の視野が広がります。
- ・コミュニケーション能力の向上：自分の考えをことばにすることで、他者に対して効果的に伝える能力が向上します。グループワークを練習の場として、自分の意見を述べるできるようになります。
- ・問題解決力の向上：人と話し合うことで、一人では得られない視点を得たり、思いがけないアイデアをもらったりすることができます。グループとしての問題解決力を磨きます。

●問題発見能力

「言語化」と「グループワーク」を通して、問題発見能力を育成します。潜在的な課題を認識したり、課題について創造的なアプローチを示したりと、独自の視点でものごとを解釈し解決に至るひらめきを得ることができるようになります。人や課題を「みる」力、質問する力、フィードバックを渡したりもらったりする力などを育成し、多角的な視点をもつことにつながります。

4. 教育の成果

大学入学当初は、思考を論理的に表現することが苦手な学生が多くいます。しかし、言語化を積み重ねることによって、次のような効果が得られています。これらは、授業の課題などによって確認することができます。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：石毛 弓 作成日：2025 年 2 月 18 日

- ・リフレクション力の向上：授業や学期のふり返りを書きます。1 回目と 15 回目では、文章の内容や量に変化がみられ、より深い内容を書くことができるようになります。
- ・レポート作成能力の向上：書くこととフィードバックの反映をくり返すことで、形式面でも内容面でもより質の高いレポートを完成させることができるようになります。
- ・コミュニケーション能力の向上：「他者と関わろうとすること」、「自分の考えを伝えること」、「他者の考えを理解すること」、「話し合いの内容を論理的にまとめること」などの力が身につきます。

5. 改善への努力と今後の目標

あつかう分野の問題で、抽象的な内容が多くなります。そのため理解したり想像したりすることが難しい場合が生じます。具体的な例や視覚教材を使うことで、理解をより深めることができるよう工夫しています。今後、さらにフィードバックやコミュニケーション、質疑応答などを用いることで、よりわかりやすく興味をもつことができる授業を設計するよう努める予定です。

【添付資料】

- ・シラバス（大学のホームページを参照）
- ・『レポートの書き方』（書く能力の教材として活用。el-Campus を参照）